

## 第 1 回 ジオパーク下仁田協議会産業観光部会報告

日時 令和4年6月17日（金）午後7時00分～午後8時10分

場所 下仁田町自然史館・ミーティングルーム

所 属	氏 名		所 属	氏 名	
神津牧場場長	須山 哲男	欠	地元農業関係者	山田 正幸	欠
下仁田ジオパークの会副会長	森川 恵美子	出	下仁田町観光協会代表理事	神戸 康宏	出
下仁田町商業協同組合副理事長	今泉 浩之	出	下仁田ねぎの会	田中 芳重	欠
前（一財）日本こんにやく協会理事長	小林 徹	欠	商工観光課商工観光係課長補佐	神戸 栄起	出
上信電鉄(株)取締役鉄道部長	小島 博	欠	農林課農業係課長補佐	神谷 哲男	出
下仁田ジオパークの会役員	黒沢 雅史	出			
商工会青年部部長	齋藤 明彦	出			
商工会女性部副部長	高橋 貴美子	欠	下仁田町自然史館	赤岡 明	出
飲食店組合理事長	佐藤 二郎	欠	〃	関谷 友彦	出

1 開 会 事務局・赤岡 2 挨拶 出席者挨拶

3 報告事項 事務局・赤岡

(1) 下仁田ジオパーク総合パンフレットの補足解説書・下仁田ジオパークアクションプランについて

【事務局】従来のパンフレットに今回、作成しました補足解説書を加えた。補足解説書は、テーマと3つのストーリーを考え、作成してより分かりやすくパンフレットを完成した。この補足解説書は、昨年ジオパーク再認定審査で、審査員から高い評価をいただいた。補足解説書の内容は、協議事項の中で、説明する。

下仁田ジオパークアクションプラン5年間の活動計画は、皆様のご協力によりまして完成した。後で、ご覧ください。

4 協議事項 進行・産業観光部会：森川さん

(1) ジオパーク再認定審査の指摘事項に対する提出書類について

【事務局】昨年のジオパーク再認定審査では、下仁田ジオパークの活動などが、審査員さんから高い評価をいただき、再認定になった。ありがとうございます。ご覧のとおり、1/28の審査結果と2/21の審査結果通知書の中にも下仁田ジオパークは、高い評価をいただいた。高い評価をいただいた半面、今後の課題や改善点なども指摘された。指摘事項をジオパーク審査委員会に回答する。産業観光部会に該当するところ、2点を事務局で回答（案）を考えたので、ご意見を願います。

### \* 緊急に着手しないし解決すべき課題 \*

再編されたテーマ・ストーリーをもとに、改めて下仁田ジオパークについて、文書や図を使って概説し、可視性やガイドツアーの基礎となる情報を整備し、Webサイト、拠点施設での展示、実際のツアーやパンフレット、看板類などへ反映してください。

この回答の事務局案が、

総合パンフレット『下仁田大地「3つの魅力」』や、新たに設置した神津牧場解説看板、またジオツアーでの解説内容で、新たに定めたテーマと3つのストーリーを来場者やジオツアー利用者に理解してもらえる体制づくりを整え始めている。

また、アクションプラン5.全体活動(2)「拠点施設の整備」にもうたったように「道の駅しもにた」や「下仁田町自然史館」の来場者に、下仁田ジオパークのテーマ・ストーリーを伝える展示を行ったり、HP リニューアルや今後のインフラ整備の計画にも新テーマ・ストーリーに沿った模様替えを行っていく。

【事務局】テーマと3つのストーリーを考えた理由であるが、

下仁田町は、いろいろと素晴らしいものがたくさんある。

ネギ・こんにゃく・荒船風穴・青岩公園・下仁田駅・白石工業白艶華工場など、いろいろとある。魅力もたくさんある。その下仁田の魅力が、パンフレットなどにうまく反映していなかったのが、課題であった。そこで、学術部会の会員を中心に皆さんやガイド部会などと議論して、テーマと3つのストーリーを考えてパンフレットを作成した。

パンフレットに掲載されているテーマと3つのストーリーは、去年のジオパーク再認定で、審査員から高い評価をいただいた。

### **\* 中期的に解決すべき事項 \***

マーケティング調査に基づき、戦略的にジオツーリズムによる経済への波及を進めてください。

この回答の事務局案が、

現在、下仁田町と観光連携協定を結んでいる高崎商科大学では道の駅利用者の目的などを問うアンケートなどを年に数回行っている。また観光案内所では観光情報の提供と併せて、お客さんとのコミュニケーションの中で様々な情報が集約されている。

アクションプラン3. 産業観光活動(3)「ジオツーリズムの充実」でもうたったように、上記のマーケティング調査に基づき、ニーズに併せた宣伝を道の駅などの観光施設でおこない、ジオツアーの利用者を増やしていく。

【委員】「・・・体制づくりを整え始めている」とはどういうことか。意味が分かりにくい。

【事務局】上記に示したパンフや新規看板で来訪者にストーリーが伝えられるような準備が始まっているという意図だった。表現方法を改める。

【委員】前回の審査の重要なポイントに観光協会との連携があった。観光協会の体制が変わってしまったかもしれないが、そこはしっかり連携してやっていくのがよいのではないか。

【委員】観光協会としては、ジオパークの関係だけでなく観光分野全体の中で絡めて紹介する流れがよい流れではないか。と考えている。HPのドメインについては観光協会が主要なものを取得している。商工会にはそちらを使っていたいて、ジオパークにもお役に立てればと考えている。

観光協会のホームページ情報に関して、ジオパークの情報が古いので、ジオパークと連携しながら観光協会からジオパークの情報が発信できるようにしていきたい。

【委員】ここにいる各組織の連携が大事。それぞれでの情報を観光協会・道の駅に集約してもらいたい。道の駅で例えば風穴の冷風が映像で見えるとか季節の花の映像情報がわかるなどの情報発信をしていくのがよいのではないか。

【事務局】マーケティング調査は、観光協会でも道の駅に来場した方の目的など調査しているとの事だが、まだ、集約できていないとの事である。集約できたら結果をまとめていきたいと考えている。

- 【委員】高崎商科大との連携は今年度3回にわたって、商品券の販売の際にアンケート調査を実施する。
- 【委員】そのアンケート集計結果などもまた共有してもらい、検討するのがよい。
- 【委員】上信電鉄の割引きの利用者のデータは活用できないか。
- 【事務局】担当が町の企画課なので確認してみる。

## その他

- 【委員】来訪者人数など具体的な目標があると、それを指すために何が必要かという議論ができるので、目標を定めるのがよいのではないか。
- 【委員】ジオブランドはいつ募集しているのか。商店などにもう少し情報提供があるとよい。
- 【委員】道の駅リニューアル後、道の駅 来場者はコロナ禍とはいえ、年間60万人と多い。そんな中で案内所に自然史館やまちなかへの道案内をすることが多いが道を伝えるのがなかなか困難。道の駅から自然史館などへ簡単に案内ができるマップがあるとよい。
- 【委員】ジオパークの可視性という観点では、白石工業の工業製品は、大地の恵み。白石の工業製品がどのような分野（製品）で使われているかを調べて紹介するだけでも、下仁田の地質の恩恵をわかりやすく見てもらえるので、よいのではないか。ゆくゆくは観光協会でもPRの方法を検討していきたい。

## 5 次回の部会開催について

- 【事務局】9月から10月頃に予定している。部会長の須山さんと森川さんと相談して日程を決め、皆さんに通知をしたい。